

【IV 就職支援】

14. 就職ガイダンス、セミナー等の実施状況について

ほとんどの大学等で、学生の就職支援のために就職ガイダンス、セミナー等を実施しており、質・内容についてもきめ細かな対応をしていることがうかがえる（表16）。

就職ガイダンス、セミナー等の名称としては、次のようなものが挙げられた。

- ・ マナー講座
- ・ メイク講座
- ・ 就職対策講座
- ・ SPI対策講座
- ・ 業界別セミナー
- ・ 先輩リレー講座
- ・ 公務員ガイダンス
- ・ 保護者就職懇談会
- ・ 筆記試験対策講座
- ・ 新入生ガイダンス
- ・ 面接体験セミナー
- ・ 自己発見セミナー
- ・ 学内合同企業説明会
- ・ 女子学生向けセミナー
- ・ エントリーシート対策講座

表16

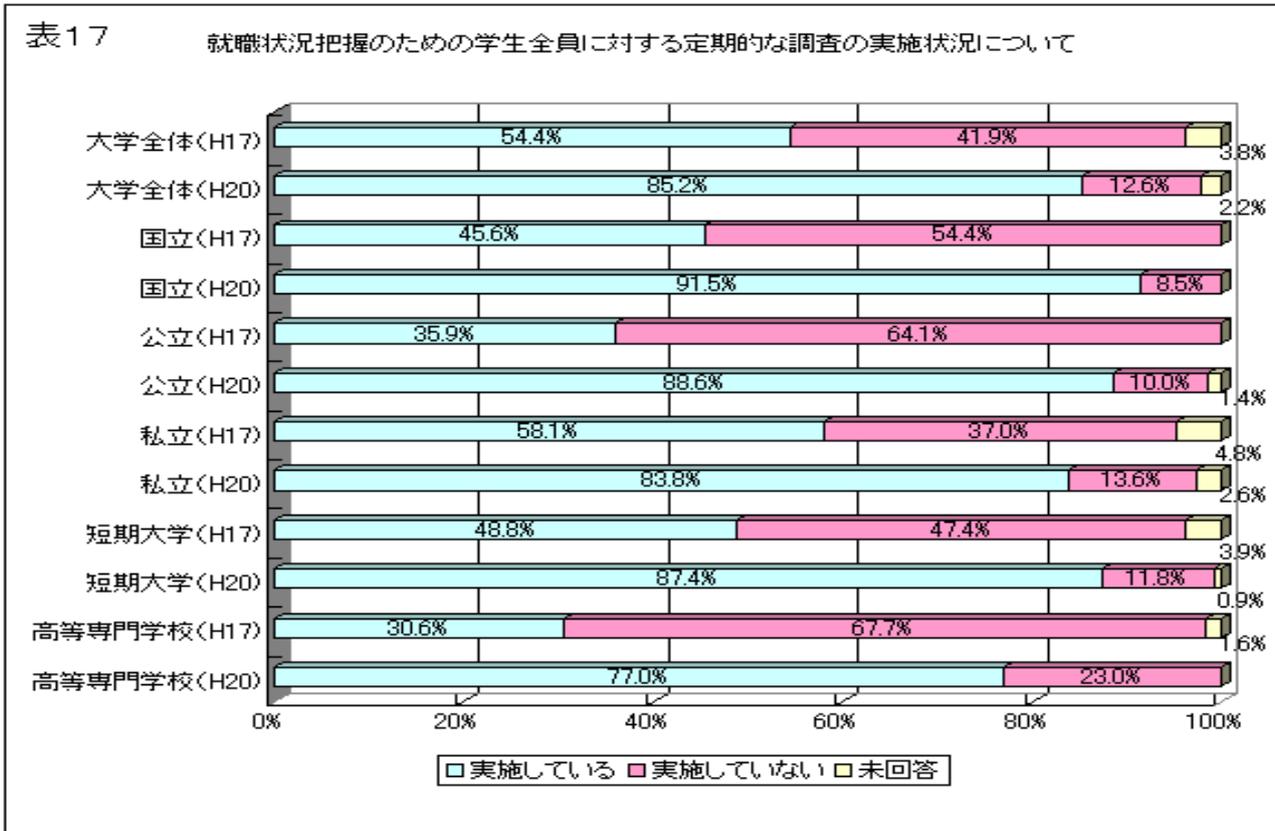
就職ガイダンス、セミナー等の実施状況



15. 就職状況の把握のための学生全員に対する定期的な調査の実施状況について

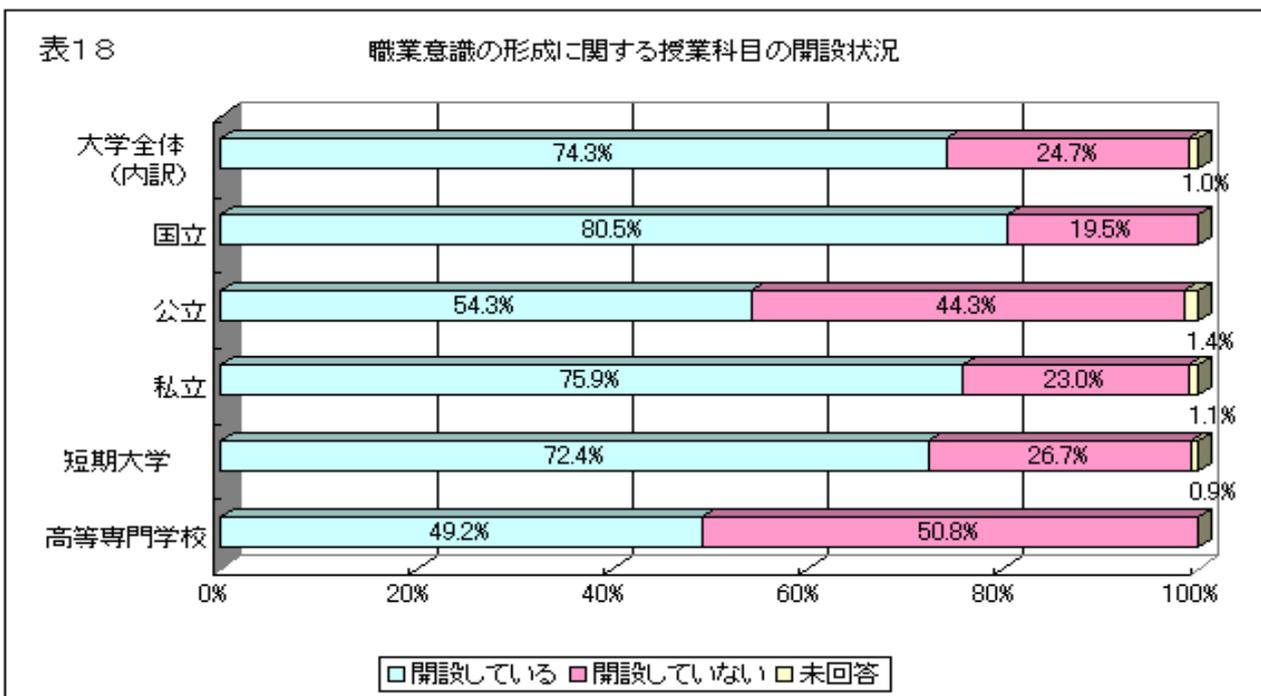
学生の就職状況を把握するために、学生全員に対して定期的な調査を実施しているかどうかについて調べた(表17)。約8割の大学等で調査を実施しており、調査頻度としては年に1～3回がほとんどだが、なかには年10回を超す大学等もあった。

前述の就職ガイダンス、セミナー等の実施状況同様、平成17年度に比べ大幅に実施率が伸びており、各大学等が学生の就職支援に一層の力を注いでいることが読み取れる。



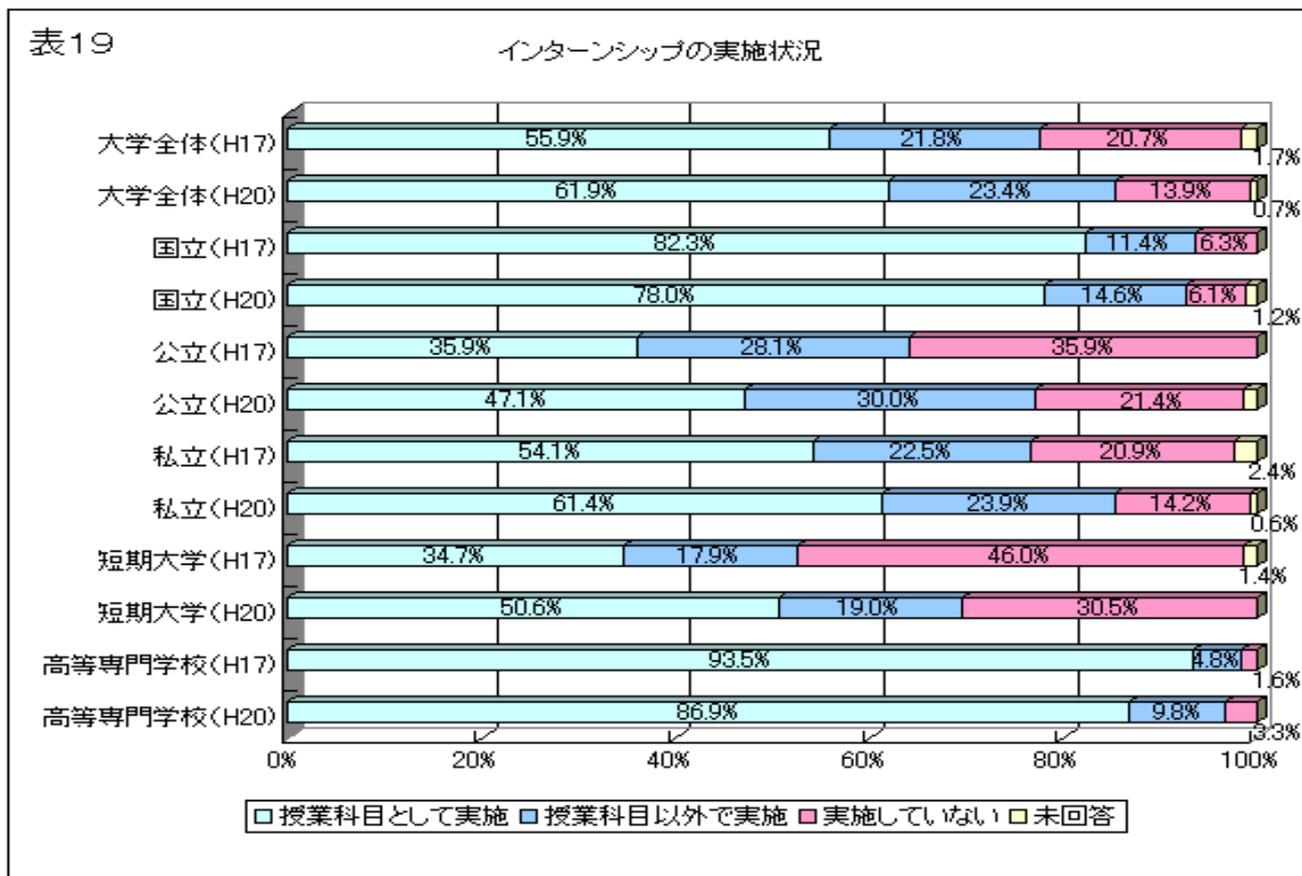
16. 職業意識の形成に関する授業科目の開設状況について

職業意識の形成に関する授業科目を開設しているかどうか調査した結果は、以下のとおりである(表18)。国立大学、私立大学、短期大学においては、7割以上の大学において授業が開設されているという結果となった。



17. インターン・シップの実施状況について

インターン・シップはほとんどの大学等で実施されている（表19）。「授業科目としての実施」と「授業科目としてではないが実施」を併せると、約85%の大学等でインターン・シップに取り組んでいることがわかった。



18. 学外の就職支援機関との連携の実施状況について

学外の就職支援機関との連携状況は、平成17年度からほぼ横ばい状態である（表20）。大学全体、短期大学では半数近くから連携しているとの回答を得たが、高等専門学校においては約3割にとどまった。

連携機関先としては、地元のジョブカフェ、ハローワーク、若者就職支援センターといった公的機関、就職情報サイトなどを運営している就職情報提供会社のような民間企業、経営者協会といった経済団体などが挙げられた。

